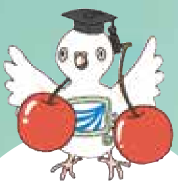
文部科学省認可通信教育
放送大学山形学習センター



ゆうがく

2023 DEC.
vol.85

冬休みに英語の曲、聴いてみませんか？

早いもので、今年もあとわずかとなりましたね。

この4月から客員教員として山形学習センターに参りまして、早いもので8ヶ月になろうとしています。慣れないながらも「学びのサロン」や学習相談を担当させていただき、学び続ける学生さんたちとの出会いをありがたく楽しんでいます。

先日の学びのサロンで、私が山形大学などの英語授業で続けている「音楽コーナー」について紹介しました。放送大学の外国語科目でも「ビートルズde英文法」というさまざまなビートルズの曲を題材に英語を学習する授業がありますが、私の授業では終了前の10-15分を使って私が独断と偏見で（笑）選んだおすすめの曲を紹介するお楽しみコーナーのような感じです。ビートルズやマイケルジャクソンなどの往年の名曲から最近の曲までいろいろ紹介しているのですが、その中の1つにBruno MarsのCount On Meという曲があります。サビの歌詞はこうなっています。（訳をつけないので、意味を考えてみてください）

You can count on me like 1, 2, 3
I'll be there
And I know when I need it
I can count on you like 4, 3, 2
You'll be there
'Cause that's what friends are supposed to do, oh yeah

ここではcount onという表現に「数を数える（カウントダウンする）」と「～をあてにする、頼る」という2つの意味があることがポイントです。君が僕を必要としているとき1、2、3と数えれば僕はすぐに来るよ、君も僕が4、3、2と数えたらすぐ来てくれるよね、という友情の歌です。「count on（人）＝～をあてにする」という熟語の元となった考え方がわかり、単語帳などで覚えるより楽しいですね。

音楽といってもさまざまありますが、ふと耳にする英語の歌の歌詞があったら、断片的にでもインターネットで検索してみると調べられるので、調べて意味を考えてみると気軽に英語が楽しめそうです。ぜひ冬休みにでもやってみてください。

山形大学 学術研究院准教授
（人文社会科学部担当）
小泉有紀子
専門：英語学・心理言語学

令和5年度 第1学期学位記授与式を開催しました

令和5年9月24日（日）に「令和5年度第1学期学位記授与式」を山形学習センター講義室において開催しました。

今回、本センターからは、教養学部の13名の皆さんが学位を取得されました。当日は、出席された3名の方々に、安田弘法所長から、お一人お一人に学位記が手渡されました。

山形学習センターでは、卒業時に特に優秀な学業成績を修められた学生について、顕彰しており、今回は、3つ目のコースを卒業された青木桜さんと佐藤明夫さんが「生涯学習奨励賞」を受賞され、当日出席された佐藤明夫さんに安田所長から賞状と記念品が手渡されました。

安田所長の式辞では、卒業生に対し、卒業まで長年に渡りご努力され学位を取得されたことに、お祝いと労いのお言葉があり、また、「卒業は新たな挑戦への出発である」「二度ない人生で教養を身に付ける重要性」「生涯学び続ける習慣の必要性」の三つについて、ご紹介がありました。

様々なご苦労や困難を克服されて、ご卒業された皆様、誠におめでとうございます。皆様の晴れやかな姿が、全科履修生の目標の一つになっています。今後とも放送大学をよろしくお願いします。

なお、今回から、コロナ禍も経て、山形同窓会の役員の皆様並びに卒業生のご家族様にも、ご参加いただきました。

【教養学部】

生活と福祉コース	2名
心理と教育コース	5名
社会と産業コース	3名
人間と文化コース	2名
自然と環境コース	1名

学位記授与式を終えての集合写真

卒業体験談

心理と教育コース　山田 将之さん

7年前、偶然岡部先生のソフトウェアのしくみの授業を放送大学のTVでみました。当時、エクセルでプログラミングの学習をして自信があったので、内容を理解できると思いきやまったく理解できませんでした。このことをきっかけに情報について学習したいと思い、当時はまず情報コースに選科履修生として入学しました。そして、50単位近く取得したときに、全科履修生として入学することを勧められて、入学し直しました。

2年前に情報コースを卒業して、心理と教育コースに再入学しこの度2回目の卒業となります。5回目の挑戦で、基本情報技術者試験に合格できたり、心理学についての知識を深めたりすることができました。仕事のスキルアップができたように思います。そして何よりも嬉しかったことは、一緒に学ぶ仲間とのつながりができ、人間関係が広がって、教養の幅ができたことです。一緒に学びあった仲間や指導・支援してくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

2学期からは、社会と産業コースに入学します。全コース卒業することを目標に頑張っていきたいと思います。

社会と産業コース　Sさん

放送大学では放送授業の単位が取れず落ち込んだり、体調不良で休んだりと悩みながら続けてきましたが、今回「社会と産業コース」を卒業認定となり良かった！と喜んでいます。

里山歩きが好きな私ですが、同行者ととも可憐な花や野鳥のさえずり、季節の風景を楽しみながら歩き　山をおります。そして家に帰ると、また次の山に挑戦？登りたくなり　あれこれ考えをめぐらせます。山歩きで体験的な知識を得ること、自然からの「学び」もまた楽しいです。

学部の次コース「挑戦」としてこの10月から「情報」コースに再入学しています。大学本部からの先生の面接授業も予定されているので、ついていけるかどうか心配しながらも楽しみにしています。

多くの方が自分の体力・気力と相談しつつ計画し　無理せず　楽しみながら探究心をもち　学び続けてくださると良いと思います。

社会と産業コース　齋藤 宏子さん

「年齢相応の知性を身につけたいものだ」と、かねがね関心を寄せていた放送大学に入学した。最初のコースに長居するうちに卒業研究をしたくなり一念発起。収集していた中国残留孤児の聞き語りをもとに、指導教官や学習センターの皆さんのおかげで何とか形にすることができた。それからは、ゆうがくの会、市立図書館、ゆうキャンパス、学界などで満蒙開拓移民のことを皆さんに紹介する機会が巡ってきた。

現在3つ目のコースで主に満蒙開拓移民の知識を広げ深めるための科目を選択し、参考文献の論文や書籍を調べたりしながら1年かかって一科目のペースで学んでいる。

入学当初、学習センターは情報交換をしたり、サークル活動で新しい知識を得たり、いろいろな方との出会いの場だった。年々歳を経るごとに足を運ぶ機会が減っていくのは寂しい限りである。会員主体で運営される放送大学のサークル活動は、放送学習とは違った自己啓発の場としてこれからも大切にしていきたいと考えている。

「自分の無知を知る」

自然と環境コース　佐藤 明夫さん

自分の知識の「引き出し」の少なさを感じ、大学教育を受けたいと思い、放送大学に入学させていただいたのが6年前になります。当時、二人の息子が大学受験と高校受験に向き合い頑張る姿をみて、父親として言葉だけではなく行動で背中を見せたいという気持ちがあったことも、放送大学への入学の動機でした。

放送大学での「学び」を進めるにつれて、今まで見えていなかったことが見えるようになり、ありとあらゆることは実は全てが繋がっており、自分にはそれが見えていないだけではないかと思うようになりました。そう思うと色々なことに興味がわき、感動する場面が増え“「学び」は楽しい”と思えるようになり、いつしか「学び」が趣味になり、今回で3つめのコースを卒業することができました。

「知識や教養を積むと人生は豊かになる。」と言われています。その意味がほんの少しだけ分かってきたように思うものの、自分にはまだまだ知識や教養は足りておらず、やっと自分の無知を知り始めたところですので、10月からは4つめのコースで「学び」を続けていきます。

令和5年度 第2学期入学者の集いを開催しました

「令和5年度第2学期入学者の集い」を令和5年10月15日（日）に山形学習センター講義室において開催しました。

始めに、安田弘法所長から、入学者の皆さんにお祝いのお言葉があり、また、「積極的に学びを楽しむ」「縁を大事にする」「学びの習慣の重要性」の三つについて、ご紹介がありました。

その後、ガイダンスとして、センターの利用方法や修学上の注意事項等について、学習センターウェブサイトやシステムWAKABAの画面等を確認しながら、詳細な説明を行いました。

最後に、当センターに所属する5つのサークル（ゆうがくの会、英語講読会、パソコン教室、国文学を読む会、書道サークル）の代表者の皆さんから、各サークルの紹介と入会のご案内がありました。

当日は、オンライン（Zoom）で6名の入学者の皆さんが出席されました。

山形SCサークルのとびら

ゆうがくの会

「ゆうがくの会」は放送大学の学生の親睦と交流を通して、学習成果の向上を図ることを目的に結成され、研修会や講演会の開催、会報の発行等様々な活動を行っています。

今年9月には研修旅行を開催し、国の重要文化的景観に選定されている大江町左沢の街並みを歩き、この地域の歴史と文化を楽しく学び、お昼には割烹「きくや」で名物の「味祭膳(あじさいぜん)」に舌鼓を打ちました。今回は、会員56名の1/3にあたる19名の皆さんが参加しました。

是非本会の目的に賛同していただける方の入会をお待ちしています。

なお、会報は6月と11月の年2回発行しており、随時、随筆や紀行文等々、幅広い分野の内容を募集しています。内容は自由でジャンルは問いませんので、ご寄稿のほど、よろしくお願いします。

特別講演会のお知らせ

下記の日程で、本会主催の特別講演会を開催しますので、奮ってご参加ください。

■ 日　時　**令和6年2月16日（金）午後1時30分～3時40分**
■ 場　所　**放送大学山形学習センター**

【講　　話】 午後1時30分～2時30分
● 講　　師　山形学習センター所長 **安田弘法** 氏
● 演　　題　**「大学生活を通じた楽しき挑戦　～研究・学び・遊び・出会い～」**

【研究発表】 午後2時40分～3時40分
● 発 表 者　本会会員 **稲村利喜男** 氏
● 発表題目　**「日本中世時代の最上家の経済と仏教」**

同窓会通信

9月9日、10日に八戸市のVISITはちのへを会場に、東北・北海道ブロック同窓会交流会が行われ、山形同窓会からは3名の役員が出席しました。放送大学の加藤和弘副学長から今後の放送大学の方向性や課題についてのお話があり、その後各同窓会との意見交換。各同窓会の活動や意見要望などの報告がありました。

第2部の記念講演では、青森同窓会のミステリーサークルの方々がマジックを披露してくれました。マジックの歴史、意味は大変興味深く素晴らしい話で、あっという間に時が流れました。

その後の懇親会では、同窓会が抱えている悩み事なども話題となり、同窓会長になってくれる人がいない、探すのがとても大変だ。と言うのが共通の悩み事でした。

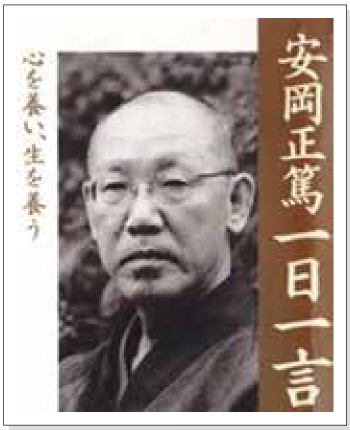
10日は、青森同窓会のみなさんに館鼻岸壁、蕪嶋神社、水産科学館などを案内いただきました。

※各サークルへの入会・体験参加や日程、同窓会への入会等については、SC事務局までお問い合せください。
※各サークルや同窓会の開催予定などは、SC「学生控室」内の掲示板でもお知らせしています。

安田所長の『ワクワク情報の小窓』

『ワクワク情報の小窓』は、山形学習センターが目指す3つのセンターのうち「人間学の学びのセンター」に関連する情報を中心に紹介します。今回は、「人間学：安岡教学に学ぶ（6）佳書」と一昨年から始め、今年度も開催している「公開講演会：シリーズ人間学を学ぶ」について少し紹介します。

【人間学：安岡教学に学ぶ（6）佳書】



佳書とは、それを読むことによって、我々の呼吸・血液・体液を清くし、精神の鼓動を昂めたり、沈着かせたり、霊魂を神仏に近づけたりする書のことであります。

佳い食物もよろしい。佳い酒もよろしい。佳いものは何でも佳いが、結局佳い人と佳い書物と佳い山水の三つであります。

然し佳い人には案外会えません。佳い山水にもなかなか会えません。ただ佳い書物だけは、いつでも手に執れます。

不幸にして佳人に会わず、佳山佳水に会わずとも、佳書にだけは会いたいものであります。

佳書によって、我々はしみじみと自分自身に話すことができるのであります。天地が壊れる時も、ああ天地が壊れると語れるのであります。これこそ天地の外に立つのであります。　（安岡正篤著、『郷研清話』、「佳書」より）

安岡師は、「人間としての教養の書、人としての哲学の書、修養の書というものを、注意して毎日たとえ三枚でも五枚でも、そうゆう書物を必ず読むようにする。いわゆる座右の書をもつことであります」と、座右の書を持ち、それを読み続けることを勧めています。安岡師の著書を読むと忙しい日常を忘れ、しばしの間、心が安らぎ落ち着きます。そして、生き方を思索するひと時を味わえます。「佳書により、我々はしみじみと自分自身に話すことができる」。佳書、改めて重要に感じます。

【公開講演会：シリーズ人間学を学ぶ】

本講演会は、「多くの皆さんが、忙しい中で生活している今、ちょっと立ち止まり少しの間、生涯の学びの一つ「生きること」を一緒に思索できれば嬉しい」を趣旨に、一昨年から開催して3年目。今年度も2名の講師から「人間学」を学び、来年の2月に第3回目の学びを予定しています。本年度、2回実施した「講演会」を少し振り返り、ご紹介します。

第1回は、6月に山形大学名誉教授・元農学部長　粕渕　辰昭　氏から『妥協から創造は生まれない』の演題でご講演。「創造とは「新しいものを造りだすこと」です。大学を卒業して以降、農業に関わる研究に取り組んできました。研究は創造的な情報を生み出す作業です。これまで、身をもって学んだのは、「妥協から創造は生まれない」ということ」。このような「創造のために妥協せず生きた80年の妥協のない研究人生」を紹介。感動した90分でした。

また、第2回は、8月に（株）エム・エス・アイ代表取締役社長　金子　昌弘　氏より学びました。演題は、『企業は人なり人の差が企業の差　人間力を高めよう』。同社は、「お客様に満足していただき、社員が豊かで幸せな生活を送れる会社を作り、地域社会に必要とされる会社になる。目指すは、「小さくともキラリと光る」山形のソリューションカンパニー」。「社是」は、謙虚・誠実・一所懸命。今回の講演では、同社の「企業理念」、「経営理念」、「社是」、「エム・エス・アイが求める人材」等に関して多面的に学び、改めて人間性や人間力の重要性を再認識。さらに、社長が率先垂範して社員が喜んで働ける環境や社風を作る、社長の凄さを感じました。

今年度第3回目は、2024年2月17日、松田　修　氏（山形大学客員教授）、『原点回帰』との演題で公開講演会を開催。多くの方が、参加されるのを期待しています。

面接授業探訪

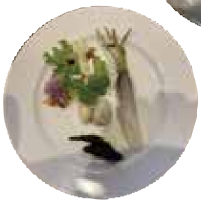
『山形の郷土料理—今昔探究』　石垣和恵先生　藤田洋治先生

1日目は、山形学習センター「講義室」で「山形の郷土料理」について、その先人たちの知恵や文化を「座学」により学び、2日目は、会場を「山形大学小白川キャンパス」内の「調理実習室」に移し、調理実習や試食を通して多くの体験を重ねていました。

調理実習の献立は、「黒豆ご飯」「細竹のみそ汁」「身欠きにしんとフキの煮物」「油味噌」「笹巻」でした。学生の皆さんは、グループに分かれて、石垣先生・山形大学の学生さんのサポートを受けながら、共同で調理作業に奮闘されていました。調理中も、古から伝わる調理技術や歴史的・地理的背景などを先生から教えていただきながら、料理を完成させ、最後にみんなで試食し、大好評のなか授業は終了しました。

2024年度には「Part2」開講を予定しています。定員も増やす予定ですので、是非、履修選択科目の候補とされてはいかがでしょうか。

『在来作物の魅力と活用その2』　江頭宏昌先生



1日目は、山形の在来作物についての歴史や魅力などについて山形学習センターで学びました。

2日目は、学習センターの外に飛び出し、「もってのほか（食用菊）」「赤根ホウレンソウ」「青菜」など5か所の栽培農園をめぐり、農家の方からのお話を伺いつつ生産現場の状況を直に体感し理解を深めました。

昼食には、山形市内のレストランで、在来作物をふんだんに盛り込んだ特製のランチを全員で堪能しました。

食事中も江頭先生や調理を担当されたシェフからの解説をいただき、とても充実した学びの一日を過ごすことが出来ました。

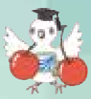
受講者の声

2日間の学びを通して、店頭に並ぶ野菜を手に取ることが楽しみになりました。

すべてのお問合せ・資料請求・お申込みは

▶インターネットでも出願や資料請求〈無料〉ができます！　www.ouj.ac.jp　放送大学　検索

〒990-8580 山形市城南町1-1-1 霞城セントラル10階

放送大学山形学習センター

TEL 023-646-8836　FAX 023-646-8838
E-mail ymg-sc@ouj.ac.jp
https://www.sc.ouj.ac.jp/center/yamagata/